



～水土里ネットかがわが参画～

「2009 子ども文化祭」開催!!

去る7月5日(日)桑名市民会館で「2009 子ども文化祭ーわくわくわなフェスティバルー」が開催され、水土里ネットかがわ(嘉例川土地改良区)も参画した。

水土里ネットかがわでは、市の天然記念物であるヒメタイコウチや絶滅危惧種に属するホトケドジョウなどの希少生物が地区内に生息しているため、子どもたちに身近で触れてもらい、さらに農業者が保全してきた水田の二次的な自然としての多面的機能を認識してもらい、農業農村に対する理解及び環境教育を通じて地域の活性化を目指している。

当日、大ホールロビーの一角に設けられたブースには、ヒメタイコウチを直接手で触れることのできるコーナー、



ブース風景

ホトケドジョウ・カワムシ・ドンコ等の地区に生息している生きものを観察できるコーナー、希少生物であるヒメタイコウチ・ホトケドジョウの生態や「かがわふる里活動隊」の構成メンバーとして地区で環境保全活動の取り組み状況等を紹介したパネルを展示したコーナーを設けた。特にヒメタイコウチを直接手で触れるコーナーでは、家族連れや子どもたちが絶え間なく立ち寄り、ミニ湿地帯からヒメタイコウチを直接採集し、自ら手のひらに載せ、目を凝らし観察していた。

水土里ネットかがわでは、今後も地域住民への農業農村の必要性や環境教育・学習の場を提供するためにも「子ども文化祭」への参画を継続していき、水土里ネットを地域住民にPRしていく予定である。



ヒメタイコウチを採集する子どもたち

「かがわ田んぼの生きもの観察会」開催

去る7月25日(土)に水土里ネットかがわの主催で「かがわ田んぼの生きもの観察会」が開催されました。

この活動は、地域に生息している希少生物(ヒメタイコウチやホトケドジョウ等)の保護を目的に地域の適正管理・生息状況の把握・子供たちへの学習の場を提供し、併せ、農地・水・環境保全向上対策事業の中の生態系保全活動の取り組みとして毎年行われ今年で6回目となります。

観察会に先立ち、主催者である水土里ネットかがわの伊藤理事長より、今回で6回目となったこの活動に今までの最高の子供約70人、親子併せて約120人が参加してくれたことに対するお礼と、ここの水路にはこの地方にし



講師の説明を聞く参加者

しているのです、今日はこのめずらしい生きものを探して夏休みの宿題に役立てていただきたい旨の挨拶があった。その後、桑名農政環境事務所の川瀬主査がほ場整備の説明をし、ほ場整備というと自然破壊のイメージがあるが、ここは環境に配慮した工法がとられている等話をされ、農業農村の持つ多面的機能の重要性をアピールされた。

各分野の講師紹介の後、参加者全員で現地に移動し、県で絶滅危惧種に認定され、桑名市でも天然記念物として指定されているヒメタイコウチや国や県に絶滅危惧種として指定されたホトケドジョウなど田んぼと水路で暮らす身近な生きものについて講師の指導によりビオトープ、水田、湿生林の三ヶ所で採取、観察等を行いました。

当日は、晴天に得まれ大変暑い日でしたが、参加した親子はビオトープや冷たい水路に入り希少生物のホトケド

ジョウやカエルを採取、湿地帯でヒメタイコウチなどを採取しました。最後に木陰の下で講師からめずらしい生きものの説明や、なぜ、その場所で生きものが多く採取できたかを分かりやすくていねいに説明を受け、夏休みの自由研究と楽しい思い出となりました。



生きものを採取する参加者

「めだか祭り」開催！



めだかを放流する子どもたち

去る8月2日(日)に水土里ネットタケル(員弁川用水第二土地改良区)が主催し、「自然と子供とのひとときを楽しもう」をテーマに「第6回めだか祭り」が、めだかの学校付近で開催され、地域の親子連れや子供たちで賑わった。

この「めだか祭り」は、農業経営総合対策事業の一環と

して計画された「子供たちの農業・農村体験学習推進事業」として、平成16年5月に開校した「めだかの学校」を地域住民のふれあいの場として提供し、事業に対する理解を深めるために催された。

この日は、あいにくの雨模様であったが、たくさんの親子連れや子供たちが訪れ、楽しい時間を過ごした。

ビオトープ(めだか池)では、めだかの放流が行われ、子供たちがめだかクラブの人から手渡されためだかの入った小さなバケツを持ち、栈橋から放流した。子供たちは、自分が放流しためだかが池の中を元気よく泳ぐ様子を目で追いつつ、大きな歓声を上げていた。

また、会場付近に設けられたブースでは、地元自治会や漁業組合が中心となりいろいろな催し物が行われ、めだか祭りを大いに盛り上げた。

水土里ネットタケルでは、今後も「めだか祭り」を地域活動として継続していき、水土里ネットを地域住民にPRしていく予定である。

スイカまつり開催！！

去る8月2日(日)に、川島土地改良区で地域と水土里ネットのふれあいの場として地区の整備された農地で収穫されたスイカ、キュウリ、カボチャなどの農作物の提供があり、近所の家族連れ、お隣どうしの主婦らが絶え間なく訪れ、テントのなかに並べられた農作物の品定めをしていた。

当日は、あいにくの雨模様で、足下の悪いなか、組合員はタオルで汗を拭くのも忘れ、来場者への対応に追われていた。



スイカを選定する来場者

来場者はこれらと思う農作物を選んでいった。中には毎年楽しみにし、組合員の手を借りるほどたくさんの農作物を運んでいる来場者もいた。

土地改良区では、毎年地区内で穫れた農作物をどんどん提供し、地域の人々に水土里ネットの必要性をアピールしており、秋にも「いもほり大会」を計画している。



組合員の手を借り、運ぶ来場者

夏休みだ!!親子で楽しもう農業体験 開催



ボート下りを楽しむ参加者

親子で豊かな農村の自然に触れ、「水・土・里」の大切さを知ってもらう事を目的に、去る8月3日(月)に多気町丹生のメダカ池周辺で水土里ネット立梅用水が主催し、多気町勢和地域資源保全・活用協議会が協催した「夏休みだ!!親子で楽しもう農村体験」が開催され、18組53名の親子が、楽しい夏休みの一日を過ごした。

このイベントは、農地・水・環境保全向上活動の一環で、「水」:田んぼや村を潤すもの、「土」:作物や生き物を育む

もの、「里」:農村の暮らしの基礎となり、豊かな文化あふれるもの、の大切さを考えてもらい、農業農村が農作物を作る所ばかりでなく、生きものが生きる場であることを分かってもらいおうと日頃自然に触れる機会の少なくなった子どもたちに遊びを通して学んでもらうため毎年企画されており、当日は、長く続いた雨も上がり絶好の日和となり、立梅用水路を利用したボート下りや竹細工でセミなどの昆虫づくり、ビオトープの生きもの調査を楽しんだ。

ボート下りでは、勢和の語り部会の方に説明を受けながら、先人たちが苦勞をして作り上げた立梅用水のノミ跡が残る素掘りトンネルを含む用水路を下った。トンネル内に入ると、ひんやりとした冷気が漂い、薄暗く探検をしているような雰囲気に歓声を上げていた。

竹細工では、セミの足として用意された竹の枝がうまく接着できず苦勞している子や、親が作り子どもに自慢しているお父さんなど微笑ましい光景も見受けられた。

休耕田を利用したビオトープの生きもの観察会では、田んぼに生息するタガメ、メダカ、タイコウチなどをすくおうと、タモとバケツを持って広い水田の周りを駆け回る子や、その場を動かず水面に目を凝らし、たくさんの生き物を捕獲する親子など、参加者は楽しい夏休みの思い出づくりができた。



ビオトープでの生きもの観察会



竹細工に挑戦する親子